めざす手話通訳

松山「つばきの会」

コーチの手の動きに合わせ単語や短文の手話法を学ぶ初心者

ボランティア活動推進へ

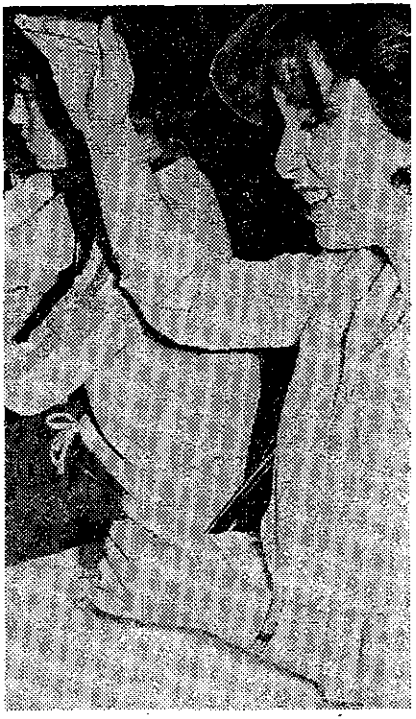
学生・OLら懸命

手話をマスターして、とかく疎外視されがちなろうあ者へのボランティア活動を推し進めよう―と二年前から毎週一回、手話の学習をコツコツと重ね、手話通訳の養成に努めている若い人たちのサークルが松山市にある。

「松山手話サークルつばきの会」（太田富雄会長・会員約二十人）で、さる五十一年「松山にも手話通訳者を」と、街頭で一般市民に参加を働きかけて発足した。会長の太田君は愛大教育学部ろう教育課程の三回生で、福岡市の出身。同会発足以来会長をつとめており、さる四月、八幡浜市で開かれた県ろうあ者大会では来賓視聴の手話通訳をつとめたベテラン。

現在の会員は大学生、OL、会社員、電気工事自営者、主婦ら若い人ばかりで、これらの健聴者のほか、コーチ役にろうあ者も加わっている。

サークルの定例会は毎週月曜。同市山越のろうあ福祉センターを会場に、午後六時半から二時間、初心者からベテランクラスまで各人の学習段階に応じて数グループに分かれ、和気あいあいと手話の学習を熱心に進めている。



長文の手話通訳をするベテラン組は笑顔を浮かべて余裕しゃくしゃく

手を結び、開き、指を立てたり折ったり、てのひらを上下左右にめまぐるしく動かして手話が始まる。「あなたのご両親は元気ですか」「お兄さんのお仕事は何ですか」――。初心者のたどたどしい手の動きに比べ、長いあいさつの練習文を同時通訳するベテランの手は一瞬の休みもなくスムーズに動く。

会長の太田君は「ろうあ者が従来から使っている手話法は単語の羅列的なもので、意訳的なものが多いが、ろうあ者には意訳よりも、発言をそっくりそのまま伝えてほしいという要望が強いので、このサークルでは助詞、助動詞などを明確に表す手話法を学習して全訳通訳をめざしています」と話しているが、会員には地元出身者が少ないのが残念だという。

会員が手話を習い始めた動機はさまざまだが、手話を通じてボランティア活動を続けたいという点では一致している。

毎回、学習の最後は手話による歌の勉強。「ぼくらはみんな生きている　生きているから笑うんだ…」。歌詞に合わせて全員の手が一斉に開いたり閉じたり、上に下に――。明るい笑顔がそこに満ちていた。